

令和元年度 佐賀県教育センター「個別実践研究」

中学校音楽科教育

研究主題

他者と協働しながら、音楽のよさや美しさを見いだす生徒の育成
—「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた鑑賞指導の手立てを通じて—

立川 理（佐賀県教育センター所員）

1 研究の概要

(1) 研究主題

他者と協働しながら、音楽のよさや美しさを見いだす生徒の育成

—「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた鑑賞指導の手立てを通じて—

(2) 主題設定の趣旨

平成 29 年 3 月に中学校学習指導要領が示され、全ての教科等において生徒に必要な資質・能力が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に再整理されました。中学校音楽科においても同様の整理がなされ、音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かにかかわる資質・能力」と規定し、三つの柱を踏まえた教科の目標が示されました。資質・能力の育成に当たっては、生徒が音楽的な見方・考え方（＝音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること）を働かせて学習活動に取り組むことができるようにする必要があることが示され、生徒が教科としての音楽を学ぶ意味が一層明確になりました。

また、この三つの資質・能力を育むために、中学校学習指導要領総則において「……生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」⁽¹⁾と明記されています。平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申では、『主体的・対話的で深い学び』の実現とは、特定の指導方法のことも、学校教育における教員の意図性を否定することでもない。人間の生涯にわたって続く『学び』という営みの本質を捉えながら、教員が教えることにしっかりと関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである⁽²⁾と記され、具体的には次の三つの視点が示されています。

- (1) 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できる視点
- (2) 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できる視点
- (3) 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できる視点

これまでの自分の授業実践を振り返ってみると、特に合唱などの表現領域の授業においては、教科目標の達成に向け、意欲的に取り組んできました。生徒同士の協働的な学習場面を多く位置付けていたので、生徒は生き生きと主体的に活動していました。しかし、鑑賞領域の授業においては、生徒各々が楽曲を鑑賞することだけに終始し、単に音楽を聴くだけの受動的な活動になっていました。また、授業のまとめは、単に感想を書くだけの活動で終わっており、言葉で説明したり、批評したりする活動も十分であるとは言えませんでした。これらの課題は、使用するワークシートを工夫することにより、授業改善できると考えます。具体的には、ワークシートの中に「音楽を形づくっている要素」を提示することにより、「音楽を形づくっている要素」と「それらの要素の働きによって生まれる特質や雰囲気など」とを結び付けることができるようにします。このことにより、生徒が感じ取った曲想と音楽の構造との関わりの理解を深め、音や音楽と自己のイメージや感情を関連付けることができると考えます。また、「思考の流れ・広がり・深まり」を意識した構成をワークシートに取り入れ、他者と

協働しながら自己の考えを深めることができるようにします。そうすることで、より一層音楽のよさや美しさを見いだすことができると考えます。

以上のことから本研究では、鑑賞領域に焦点を当て、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた手立てを工夫した授業実践を行うことで、他者と協働しながら、音楽のよさや美しさを見いだす生徒の育成ができると考え、本主題を設定しました。

(3) 研究の目標

中学校音楽科において、生徒が他者と協働しながら、音楽のよさや美しさを見いだすことができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた効果的な手立ての在り方を探る。

(4) 研究の仮説

鑑賞の授業において、使用するワークシートに「音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点」を示し、生徒の「思考の流れ・広がり・深まり」を意識した構成をワークシートに取り入れる工夫をすれば、他者と協働しながら音楽のよさや美しさを見いだす生徒を育成することができるであろう。

(5) 研究方法

- ア 音楽科における「主体的・対話的で深い学び」に関する理論研究
- イ 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえたワークシートの開発とそのワークシートを活用した授業実践
- ウ 鑑賞領域の学習についての実態調査

(6) 研究内容

- ア 理論研究を通し、音楽科における「主体的・対話的で深い学び」の視点について整理し、授業実践における効果的な指導方法を探る。
- イ 授業実践における手立ての有効性を検証する。
- ウ 実態調査を基にした手立ての有効性を検証する。

2 研究の実際

(1) 文献等による研究

- ア 中学校音楽科で育成を目指す資質・能力

新学習指導要領中学校音楽科の教科目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することと記されています。その上で、育成を目指す資質・能力が以下の三つに整理されました⁽³⁾。

(1) 「知識及び技能」の習得に関する目標

曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 「思考力、判断力、表現力等」の育成に関する目標

音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関する目標

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

本研究の目標は、特に「思考力、判断力、表現力等」の目標と関連が深いことが分かります。

イ 「音楽的な見方・考え方」の捉え方

新学習指導要領総則において、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行うに当たり、それぞれの教科等の固有の「見方・考え方」が重視されています。「見方・考え方」は、各教科等の学習の中で働くだけでなく、大人になって生活していくに当たっても重要な役割を果たすもので、新学習指導要領においては、学校の学びと社会を架橋しており、この「見方・考え方」を各教科等における深い学びの鍵として位置付けています。

新学習指導要領解説音楽編では、「音楽的な見方・考え方」について「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」⁽⁴⁾と考えられると述べられています。また、「音楽科の特質に応じた、物事を捉える視点や考え方であり、音楽科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものである」⁽⁵⁾とも示されています。

本研究では、「音楽的な見方・考え方が働いている状況」のイメージを図1のように捉えます。

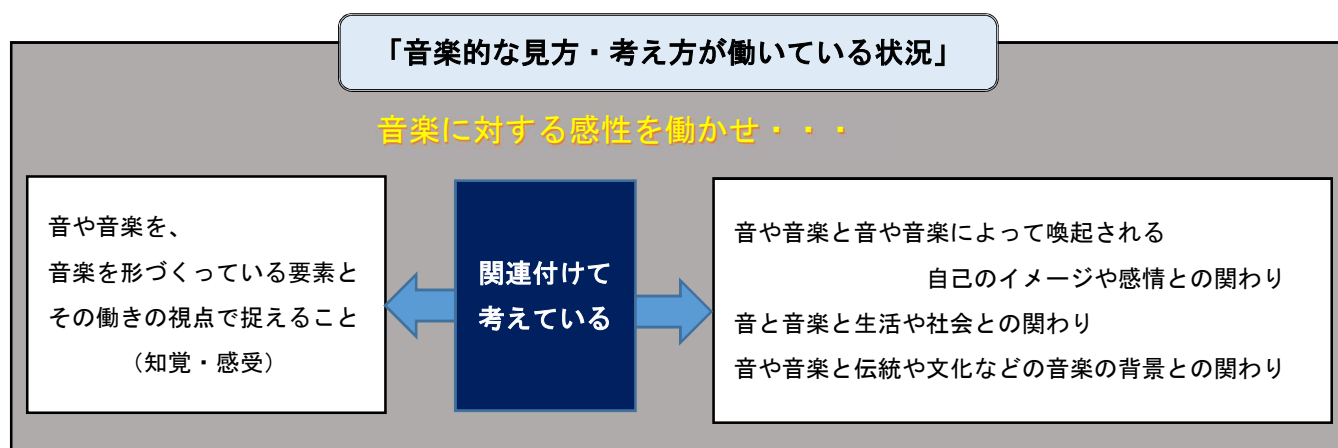


図1 「音楽的な見方・考え方が働いている状況」のイメージ

さらに、新学習指導要領解説音楽編には、「音楽的な見方・考え方を働かせて学習をすることによって、実感を伴った理解による『知識』の習得、必要性の実感を伴う『技能』の習得、質の高い『思考力、判断力、表現力等』の育成、人生や社会において学びを生かそうとする意識をもった『学びに向かう力、人間性等』^{かん}の涵養が実現する。このことによって、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力は育成される」⁽⁶⁾とも明記されています。

以上のことより、中学校音楽科では「音楽的な見方・考え方」を働かせた学習活動が重要であることが分かります。

ウ 「音楽のよさや美しさを見いだす」過程

「思考力、判断力、表現力等」の育成に関する目標の後半部分の「音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする」ことが鑑賞領域に関する目標となります。新学習指導要領解説音楽編では、中央教育審議会答申における音楽科の成果と課題を踏まえ、今回の学習指導要領改訂の基本的な考え方の一つとして、感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図ることを示しています。また、「音楽のよさや美しさを味わって聴くとは、曲想を感じ取りながら、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情を、音楽の構造や背景などと関わらせて捉え直し、そ

の音楽の意味や価値などについて自分なりに評価しながら聴くことである」⁽⁷⁾と示されています。続けて目標及び内容の解説部分では「音楽のよさや美しさを味わうとは、例えば、快い、きれいだといった初発の感想のような表層的な捉えに留まることなく、鑑賞の活動を通して習得した知識を踏まえて聴き返し、その音楽の内容を価値あるものとして自らの感性によって確認する主体的な行為のことである」⁽⁸⁾と示されており、その姿こそが生徒が音楽のよさや美しさを見いだす姿と考えます。また、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりするためには、「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることが必要である。その過程においては、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫することが大切である」⁽⁹⁾とも示されています。

本研究では、鑑賞の学習における「音楽のよさや美しさを見いだす」過程を図2のように考えます。

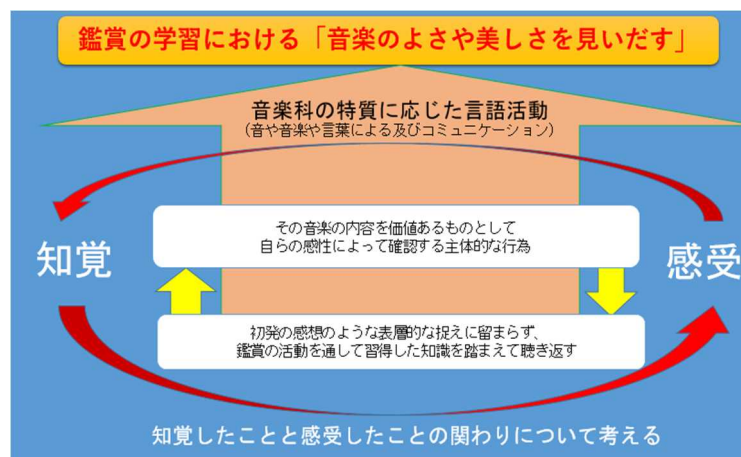


図2 鑑賞の学習における「音楽のよさや美しさを見いだす」過程

エ 「主体的・対話的で深い学び」の視点

中央教育審議会答申には、「学びの成果として、生きて働く『知識・技能』、未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』、学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』を身に付けていくためには、学びの過程において子供たちが、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結び付けたり、多様な人との対話を通じて考えを広げたりしていることが重要である。また、単に知識を記憶する学びにとどまらず、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせることを実感できるような、学びの深まりも重要になる」⁽¹⁰⁾と示されています。また、「こうした学びの質に着目して、授業改善の取組を活性化しようというのが、今回の改訂が目指すところである」⁽¹¹⁾と示されています。

初等中等教育局教育課程課教育課程企画室は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点に関して、次のように述べています⁽¹²⁾。

「主体的な学び」
子供自身が興味を持って積極的に取り組むということにとどまらず、いま学習していることが、それぞれの教科等の学びの中でどのような位置付けや意味を持っているか、何を目指しているものなのかを認識し、学習を振り返りつつ見通しを持って学習活動に取り組んでいくことが重要である。
「対話的な学び」
自己の考えを形成したり、考えを広げたり深めたりしていくためには、自己とは異なる考え方に触れたり、向き合ったりすることが重要である。これによって知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至ることが可能になる。このねらいを十分に踏まえ、子供たちの自主的な活動のみに委ねた場合、学習成果につながらない「活動あって学びなし」と批判される授業に陥る可能性が高いことに留意が必要である。
「深い学び」
子供たちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事

を捉え思考することを通じて、身に付けた資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。教員はこの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。

オ 音楽科における「対話的で深い学び」と「音楽科の特質に応じた言語活動」

副島和久は、協働は音楽科における大切なキーワードであり、音楽科ならではの学習の姿であると述べています。グループ活動やペア活動などの「対話する活動」を位置付ければ、それが必ずしも「対話的な学び」になっているとは限らない、子供が必然性を感じないペア活動や、活動の進め方やゴールが見えないままに、ただ伝え合っているだけのグループ活動からは何も生まれないとし、「何のためにお互いの考えを伝え合っているのか」「伝え合ったあとに何をするのか」ということを明確にすることにより、子供たち自身が伝え合うことに意義や必要性を感じ、その上で、「自分の考えを伝えたい」「友達の考えを聞きたい」と強く思い、対話する活動を楽しんでいる、その結果として、それぞれの子供の中で、自分の気付きや考え方、感じ方が広がったり、深まったりしたかどうかが重要であると述べています。また、まだ漠然としている自分の考えを、友達に納得してもらおうと何度も説明したり、友達からの質問に答えたりしているうちに、自分の考えが確かなものになったり、深まったりするとも述べています。友達が聴き取り、感じ取ったことを聞いたあと、改めて音楽を聴くと、これまで聴こえてこなかった旋律やリズムに気付き、自分だけでは見いだせなかった「知覚・感受」があることを知ることができ、他者との関わりを通して、考え方や感じ方が広がったり深まったりすることが、「対話的で深い学び」の本質であると述べています。

副島は続けて、音楽科の特質に応じた言語活動について、言語活動は手立てであって、目的であってはいけないと述べており、あくまでも音楽科の目標をよりよく実現するための手立てとして、言語活動を充実させることが重要であると述べています。また、音楽科の特質に応じた言語活動の充実を図るためには、教師もそのための導きを丁寧にしなければいけないとし、音楽から感じるものは、子供一人一人これまでの生活体験や音楽学習の経験によっても異なり、子供たちが聴き取ったことや感じ取ったことを的確に言葉で伝えるのは簡単ではない、だからこそ教師が子供とのやり取りを丁寧に行うとともに、子供たち同士の関わりを豊かにして、他者の多様な感性に触れることができるようにし、そうすることで、一人一人の感性も深まると述べています。また、教師自身がその子供の言ったことをきちんと理解し、授業の中で子供との言葉のやり取りを、もう1往復か2往復することにより、その子供の真意を学級全体で共有することができ、理解が深まり、学びが深まっていくと述べています。

以上の文献等による研究から、「音楽のよさや美しさを見いだす生徒の育成」のイメージを図3のように捉えることとします。

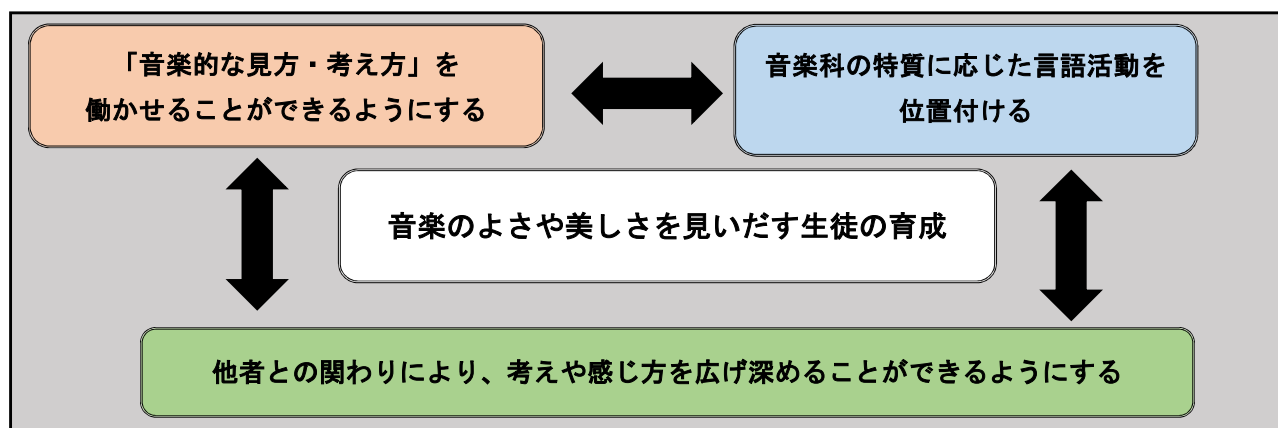


図3 「音楽のよさや美しさを見いだす生徒の育成」のイメージ

(2) 実態調査

検証授業の対象となる第3学年の生徒に実施した実態調査(令和元年9月実施)は次のとおりでした。

表1 事前の実態調査結果

質問	選択肢	割合 n=36
(1) 鑑賞の授業で感想を書くことは、好きですか。	1 好きだ	6%
	2 どちらかといえば好きだ	17%
	3 どちらかといえば好きではない	53%
	4 好きではない	25%
(2) 音楽の授業で音楽を鑑賞するとき、音色、リズム、速度、強弱、構成などの特徴を聴き取るようにしていますか。	1 そうしている	14%
	2 どちらかといえばそうしている	53%
	3 どちらかといえばそうしていない	28%
	4 していない	6%
(3) 音楽の授業で音楽を鑑賞するとき、その音楽のよさや美しさを感じ取るようにしていますか。	1 そうしている	14%
	2 どちらかといえばそうしている	61%
	3 どちらかといえばそうしていない	22%
	4 していない	3%
(4) 音楽の授業で音楽を鑑賞するとき、その音楽の作曲家や背景となる文化・歴史などについて考えるようにしていますか。	1 そうしている	6%
	2 どちらかといえばそうしている	22%
	3 どちらかといえばそうしていない	53%
	4 していない	19%
(5) 音楽の授業で音楽を鑑賞するとき、その音楽の特徴や感じ取ったことなどを言葉で表すことが好きですか。	1 好きだ	8%
	2 どちらかといえば好きだ	19%
	3 どちらかといえば好きではない	56%
	4 好きではない	17%
(6) 音楽の授業で学習する内容に興味をもって、積極的に鑑賞の活動に取り組んでいますか。	1 取り組んでいる	22%
	2 どちらかといえば取り組んでいる	56%
	3 どちらかといえば取り組んでいない	17%
	4 取り組んでいない	6%
(7) ふだんの生活の中で音楽を鑑賞するとき音楽の授業で学んだことが生きていますか。	1 そう思う	11%
	2 どちらかといえばそう思う	44%
	3 どちらかといえばそう思わない	33%
	4 そう思わない	11%
(8) 音楽の鑑賞の授業で、友だちと話し合う活動や共に学び合うことは必要だと思いますか。	1 必要だと思う	33%
	2 どちらかといえば必要だと思う	61%
	3 どちらかといえば必要だと思わない	3%
	4 必要だと思わない	3%

* 『平成25年度中学校学習指導要領実施状況調査 生徒質問紙調査(音楽)』(国立教育政策研究所) 参考

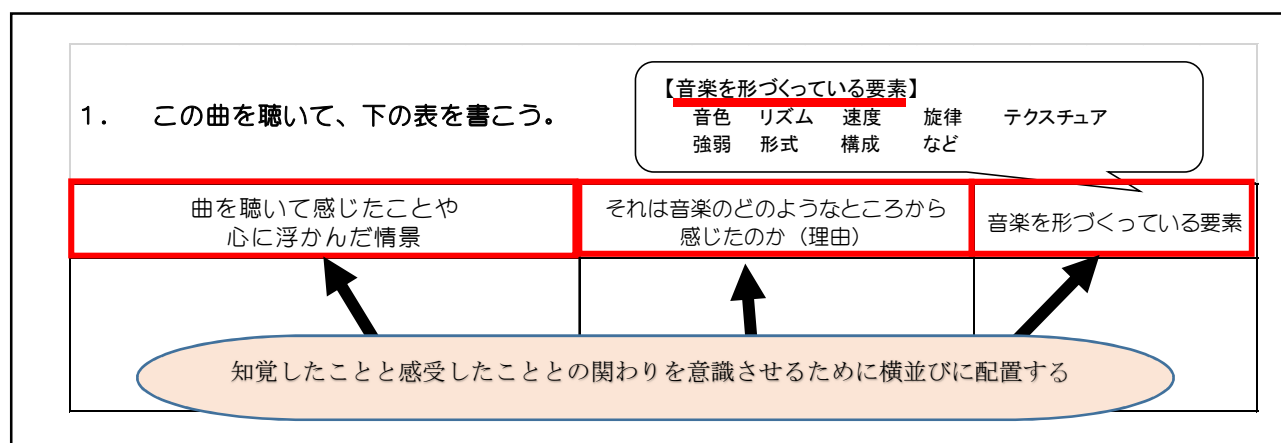
「(3) 音楽の授業で音楽を鑑賞するとき、その音楽のよさや美しさを感じ取るようにしていますか」の問いには75%の生徒が肯定的な回答(そうしている14%、どちらかといえばそうしている61%)をしており、音楽科の「思考、判断、表現力等」の教科目標に関して、前向きな姿勢が見られます。しかし、「(2) 音楽の授業で音楽を鑑賞するとき、音色、リズム、速度、強弱、構成などの特徴を聴き取るようにしていますか(音楽を形づくっている要素に関する質問)」の問いには34%の生徒が否定的な回答をしています。生徒が今まで以上に「音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする」ためには、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるような学習の充実が必要だと感じます。その他に、「(1) 鑑賞の授業で感想を書くことは、好きですか」の問いでは、78%の生徒が否定的に回答しており、理由として「言葉で表現するのが難しいから」や「何を書けばいいかわからない」「感想を上手に表現できない」などを挙げており、「感想を書く」という抽象的な指示ではなく、より具体的な指示にすることにより、言葉で説明したり、批評したりする活動も充実していくと考えます。また、「(8) 音楽の鑑賞の授業で、友だちと話し合う活動や共に学び合うことは必要だと思いますか」の問いには、94%の生徒が肯定的に回答しており、「グループ活動」などの他者と協働する活動についても必要性を感じています。

(3) 本研究で取り入れる具体的な手立て

文献等による研究及び実態調査の結果を基に、「音楽のよさや美しさを見いだすことができる」ようにするために以下のようにワークシートを工夫し、協働の場面を設定しました。

- ア 曲の特徴を紹介する活動で使用するワークシートに、「感じたことや情景」「理由」「音楽を形づくっている要素」の項目を横並びに示した表枠を設ける。
- イ 曲の特徴を紹介する活動で使用するワークシートに、「音楽を形づくっている要素」を示す。
- ウ 曲の特徴を紹介する活動や音楽と絵画との関わりを考える活動で使用する「感じたことや情景」「理由」「音楽を形づくっている要素」それぞれを表す語彙をまとめたヒントプリントを作成する。
- エ 曲の特徴を紹介する活動や音楽と絵画との関わりを考える活動で使用するワークシートに、具体的なめあてを示し、思考が広がり深まる構成にする。
- オ ワークシートに、グループ活動で共有したことを加筆できる欄を設ける。

まず、生徒が知覚したことと感受したこととの関わりを意識し、「音楽的な見方・考え方」を働かせることができるようにするために、ワークシートに「曲を聴いて感じ取った曲想や、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情」と「それは音楽のどのようなところから感じたのか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」を横並びに配置します（資料１の赤枠部分）。生徒が音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成）を意識できるように、ワークシートに提示します（資料１の赤下線部分）。



資料１ 「音楽的な見方・考え方」を働かせるための工夫

次に、生徒が「曲を聴いて感じ取った曲想や、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情」と「それは音楽のどのようなところから感じたのか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」との関わりを理解しやすくするためにヒントプリント（次頁資料２）を配付します。

表を書く時の参考にしましょう！ この中にある言葉も、どんどん使って書いてみましょう！

(例) 曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景	(例) それは音楽のどのようなところから感じたのか(理由)	音楽を形づくっている要素
老人たちが誰かに話しかけている	やさしい音色だったから	音色
ゾウが歩いているような感じ	低い音が使われていたから	
キラキラした感じがした	トランペットの音が響いていたから	
ちょこちょこ動いているような感じ	同じリズムが繰り返し使われているから	リズム
楽しい感じ	付点のリズムだったから	
力強い感じ	1曲を通して、強い音だったから	強弱
少女がささやいている感じ	弱い部分が多かったから	
せかせかしている人のような感じ	曲がとても速かったから	速度
堂々とした王様	低い金管楽器の音と曲の速度が遅かったから	
ゆったりと時間が流れているような感じ	旋律(メロディー)の動きの幅が少ないから	旋律
暗い感じがした	短調だったから	
だんだん気持ちがおもってくる感じ	同じ旋律(メロディー)が繰り返されるから	曲の構成
ゆったりとしていて草原にしているような感じ	速度が遅く、木管楽器の音が軽く演奏されていたから	音色 ・ 速度

↑

ジェットコースターに乗っているような 水のような 光がさしているような 走っているような 子どもが遊んでいるような
 楽しい うれしい うきうきした 明るい 元気な 生き生きした 鮮やかな 悲しい さびしい
 切ない むなしい 重々しい 眠たい 冷たい 落ち着いた なごやか ゆるやかな のんびりした
 あたたかい のどかな ほがらかな どしりとした 激しい 迫力がある 盛り上がる 華やかな パワフルな
 情熱的な にぎやかな 輝かしい 怖い 恐ろしい 絶望的な 不気味な 不安な ぞっとする 静かな さわやかな
 ささやくような 繊細な ふんわりとした 不思議な ふわふわした 優しい やわらかい かわいい 優雅な 甘い 力強い 堂々とした
 勇ましい 壮大な 重々しい はずむような はつらつとした 美しい 歌うような 踊りたくなるような 緊迫感のある

資料2 ヒントプリント

さらに、生徒が「思考の広がり・深まり」を意識できるようにするために、「曲の特徴」や「音楽と絵画との関わり」についての具体的なめあてを提示し、より一層「音楽のよさや美しさを見いだすこと」ができるようにします(資料3)。

2. この曲を知らない人に、この曲の特徴を紹介しよう！
 (条件) 上の1で書いたこと3つのことを入れながら書こう。

この曲は、

ぜひ、聴いてみてください。

1時目
「特徴を紹介しよう！」

2. この曲は、「絵のイメージ」と合っていると思いますか？ ア〜ウから選ぼう。
 ア. 合っている
 イ. 合っていない
 ウ. どちらともいえない
 なぜ、そう思うのか、理由をメモしましょう。

2時目
「音楽と絵画との関わり」

3. この曲の紹介文を「音楽と絵画との関わり」を踏まえて書こう。
 (上の1や2で書いたことを含めながら書きましょう)

この曲は、

資料3 「思考の広がり・深まり」を意識したプリントの構成

最後に、意見の交換を通して、考え方や感じ方が広がったり深まったりするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点として、ワークシートにグループ活動での他者からの意見を色ペンで記入させるようにします。

(4) 授業実践

- ア 題材名 他者と協働しながら、音楽のよさや美しさを味わおう
 イ 教材 組曲「展覧会の絵」 ムソルグスキー作曲 ラヴェル編曲
 ウ 題材について

(1) 題材観

本題材は、新学習指導要領〔第2学年及び第3学年〕の内容「B鑑賞」の「(1)ア(ア)鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと」、「(1)イ(ア) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること」及び「(1)イ(イ)音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりを理解すること」を受けて設定したものである。

教材曲の組曲「展覧会の絵」は、作曲者ムソルグスキーが、友人の画家・建築家ガルトマンの遺作展で見た絵画を音楽で表現したものである。この組曲は、絵画に対応する10曲の楽曲と絵から絵に移る作曲者の歩みや気分を表している「プロムナード」で構成されている。「プロムナード」とは、フランス語で「散歩」という意味であり、何度か形を変えて冒頭や曲間で演奏される。なお、ムソルグスキーはピアノ曲として作曲しているが、様々な楽器の音色や表現の多様さを感じ取り、音楽を深く鑑賞することができるように、ラヴェル編曲のオーケストラ版を用いることとする。また、曲の特徴や曲想等のバランスを考え、「プロムナード」「古城」「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」「キエフの大きな門」の4曲を教材として選択することにより、多様な音楽の鑑賞活動ができると考える。

本題材は、音楽を形づくっている要素に着目して、曲想と音楽の構造との関わりを感じ取って聴き、そのことによって理解したことや捉えた特徴などを根拠として曲や演奏に対する評価を考え、言葉で説明することにより、音楽のよさや美しさを味わうことができる。また、音楽と絵画との関わりについて考えを深めることで、より一層音楽のよさや美しさを味わうことができる。

(2) 指導観

鑑賞領域の授業においては、生徒が音楽的な見方・考え方（＝音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること）を働かせて学習活動に取り組むことが大切であると考え。また、使用するワークシートを工夫することにより、授業改善ができると考える。

そこで指導に当たっては、知覚したことと感受したことを関連付けて捉えることができるようにするために、「曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景」「理由（根拠）」「音楽を形づくっている要素」を分かりやすく整理できるようなワークシートを準備する。そして、1時目においては、まず「古城」を聴取し、知覚したことと感受したことを教師とのやりとりを通してクラス全体で考え、音楽の特徴についてまとめる。次に、「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」を聴取し、知覚・感受したことを個人で書き、その後グループ活動において、知覚・感受したことを広げ深めるようにする。2時目においては、1時目の学習経験を生かして、「キエフの大きな門」の音楽の特徴を捉え、グループ活動を通して、知覚・感受を広げ深めることとする。次に、この曲の基となった絵画との関わりについて考え、音楽と絵画との関わりについての自分なりの考えをもつことができるようにする。最後に、音楽と絵画との関わりについての考えを含めた紹介文を書くことで、本題材で学んだことを振り返ることができるようにしたい。

エ 題材の目標

- 音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的・協働的に取り組む。
- 音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組む。
- 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解し、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
- 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて解釈したり価値を考えたりして、鑑賞する。

オ 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度 [関]	鑑賞の能力 [鑑]
①音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解し、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
②音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	②音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて解釈したり価値を考えたりして、鑑賞している。

カ 題材の指導計画と評価計画（全2時間）

時	◎ねらい ・学習活動	[評価規準] 【評価方法】
1	◎音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解し、根拠をもって批評するなどして、鑑賞する学習に主体的・協働的に取り組む。 ・「古城」「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」を鑑賞する。 ・個人で考えをまとめる。 ・グループで意見交流する。 ・全体で共有する。 ・紹介文を書く。	[関①] 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】 [鑑①] 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】
2	◎音楽と絵画との関連に関心を持ち、音楽の特徴を絵画と関連付けて解釈したり価値を考えたりしながら、主体的に鑑賞する。 ・「プロムナード」「キエフの大きな門」を鑑賞する。 ・個人で考えをまとめる。 ・グループで意見交換する。 ・全体で共有する。 ・紹介文を書く。	[関②] 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】 [鑑②] 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】

キ 展開

(7) 1 時目

a 目標

音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解し、根拠をもって批評するなどして、鑑賞する学習に主体的・協働的に取り組む。

b 展開 (1 / 2)

	学習活動	教師の指導・支援
導入	1 「プロムナード」を聴く。	・作曲された経緯について説明し、組曲「展覧会の絵」について興味をもつことができるようにした。
	2 本時のめあてと授業の流れをつかむ。	
	めあて 「曲の特徴をとらえて、紹介文を書こう」	
展開	3 「古城」を鑑賞し、「曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景」「理由」「音楽を形づくっている要素」との関わりを理解する。また、「曲の特徴について」考える。	・「曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景」「それはどのようなところから感じたのか(理由)」「音楽を形づくっている要素」について、生徒と一緒にまとめた。 ・記述が進んでいない場合は、ヒントプリントを配った。
	4 「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」を聴き、個人でワークシートに「曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景」「理由」「音楽を形づくっている要素」を書く。	↑ 具体的な手立て（資料１・２）
	5 「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」を聴いて、知覚・感受したことについて、グループで意見交換し、自分の気付かなかったことをワークシートに書き加える。	他者との関わりにより、考えや感じ方を広げ深める手立て ↓
	6 「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」についての紹介文をワークシートに書く。	・生徒の意見やグループで意見交換させ、個人で気付かなかったことに気付くことができるように支援を行った。 （ワークシートに色ペンで書かせる） ・クラス全体で共有した。
	7 絵画と音楽との関わりについて考える。	・知覚・感受した事柄を根拠にして、紹介文を書くよう指示した。
	← 具体的な手立て（資料３）	
	8 次時の予告をする。	・次回「キエフの大きな門」を聴くことを伝え、曲と絵画との関わりについて、学習することを伝えた。
終末		

(4) 2時目

a 目標

音楽と絵画との関連に興味をもち、音楽の特徴を絵画と関連付けて解釈したり価値を考えたりしながら、主体的に鑑賞する。

b 展開 (2/2)

	学習活動	教師の指導・支援
導入	1 前時の振り返りをする。	・ 前回のワークシートから「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」の紹介文を紹介した。 ・ 同じ「プロムナード」でも、「音楽を形づくっている要素」(音色・旋律(調)・速度)が違っていると曲の特徴が変わることを理解できるようにした。 ・ 「キエフの大きな門」の基となった絵画についてイメージさせることにより、音楽と絵画との関連について興味をもたせるようにした。
	2 異なる「プロムナード」を聴き、前時の学習を振り返る。	
	3 本時のめあてを確認する。	
	めあて 「音楽と絵画との関わりについて考え、曲を味わおう」	
展開	4 「キエフの大きな門」を聴き、ワークシートに「曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景」「理由」「音楽を形づくっている要素」を書く。	・ 記述が進まない生徒については、前時に配付したヒントプリントを参考にするように助言し、支援した。
	5 グループで友だちの考えを共有し、知覚・感受したことを広げる。	・ グループ活動が停滞しているところには声掛けを行い、支援した。 ・ 友だちの意見の中から、自分が納得いく内容を色ペンでワークシートに書くよう指示した。 ・ 意見をクラス全体で共有した。 ・ 実際に音で確認するよう指示した。
	6 再度、曲を聴く。	
	7 この曲と絵画との関わりについて、個人で考える。その後、グループで意見を交わし、自分の考えを広げる。	・ 「キエフの大きな門」の絵画を提示した。 ・ この曲は「絵のイメージ」と合っているか、また合っていないかを考えさせ、グループで論じさせた。 ・ グループ活動が停滞しているところには声掛けを行い、支援した。
	8 再度、曲を聴く。	・ グループで話し合った内容を、実際の音で確認するよう指示した。 ・ この曲と絵画との関わりを踏まえながら、紹介文を書くよう指示した。
	9 この曲の紹介文を書く。	
	終末	10 今回の学習で学んだことを振り返る。

(5) 授業実践における手立ての有効性についての考察

鑑賞の授業において、使用するワークシートに「曲を聴いて感じ取った曲想や、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情」と「それは音楽のどのようなところから感じたのか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」を横並びに配置したり、「音楽を形づくっている要素」を提示したりしました。また、「音楽を形づくっている要素」との関わりを理解しやすくするためにヒントプリントを配付したり、「思考の広がり・深まり」を意識できるようにするために、「曲の特徴」や「音楽と絵画との関わり」についての具体的なめあてを提示したりしました。最後に、グループ活動での他者からの意見をワークシートに色ペンで記入させる工夫をしたことにより、他者と協働しながら音楽のよさや美しさを見いだす生徒を育成することができたかをワークシートの記述を基に分析しました。本研究では、「他者と協働しながら、音楽のよさや美しさを見いだしている生徒」の具体を次のように捉えることとし、分析しました。

- ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「曲を聴いて感じ取った曲想や、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情」と「それは音楽のどのようなところから感じたのか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」を関連付けながら発言したり、ワークシートに記述したりしている。
- イ 「曲を聴いて感じ取った曲想や、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情」と「それは音楽のどのようなところから感じたのか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」を関連付けながら、「曲の特徴（１時目）」や「音楽と絵画との関わり（２時目）」について発言したり、ワークシートに記述したりしている。
- ウ グループ活動での他者からの意見を色ペンで記入し、他者との関わりを通して、考え方や感じ方が広がったり深まったりした内容を発言したり、ワークシートに記述したりしている。

アについての分析

検証授業前の授業においては、曲を聴いた感想を書かせるだけの内容のワークシートであったため、記述内容には「音楽を形づくっている要素」や「それは音楽のどのようなところから感じたのか（理由）」についての記述は見当たりませんでした。しかし、今回の検証授業（２時目）後のワークシートでは、「曲を聴いて感じ取ったことや心に浮かんだ情景」と「それは音楽のどんなところから感じましたか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」についての記述については、全ての生徒が記入しており、それぞれの関係性を意識しながら学習に取り組むことができていたと言えます。しかしながら、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成）については、音色、リズム、速度、強弱については全員の生徒が記述していましたが、旋律、テクスチャ、形式、構成について記入している生徒は半数にも至りませんでした。「音楽のよさや美しさを味わって聴く」ためには、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて気付くことが大切ですが、ヒントプリントだけでは不十分であったと考えます。

曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景	それは音楽のどんなところから感じましたか(理由)	音楽を形づくっている要素
向かい勝負の時のような感じ	音が入ってくるリズムがゆくりで盛りのような感じ	強弱 速度
勇ましい感じ	鐘のような音が聞こえてきたから。	音色

資料４ 生徒Aの記述

曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景	それは音楽のどんなところから感じましたか(理由)	音楽を形づくっている要素
堂々としている(城のしーは大きな門が重く開く感じ)	音の大きさ 最初の低音パート	強弱 音色

資料５ 生徒Bの記述

生徒Aの記述（資料4）及び生徒Bの記述（資料5）から、「曲を聴いて感じ取った曲想や、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情」と「それは音楽のどのようなところから感じたのか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」についてワークシートに記述することができています。また、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えながら、ワークシートに記述していると考えられます。

イについての分析

「曲の特徴（1時目）」や「音楽と絵画との関わり（2時目）」についての記述については、全員が記入できていましたが、「曲を聴いて感じ取った曲想や、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情」と「それは音楽のどのようなところから感じたのか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」を関連付けながら、記述ができていた生徒は少数でした。多く見られたものは自己のイメージや感情の記述のみで、音楽を形づくっている要素とその働きの視点については記入できていませんでした。

この曲は、絵の中の物語が感じられます。絵の中の人か、とても不思議な人を見て驚いている様子。音の強弱や曲の構成で表現されていて、とても音楽です。この曲を聴くから、自分が絵の中にいること想像ができて、とても楽しいです。

資料6 生徒Cの記述

この曲は、10枚目の絵画、最後の絵を見てムリルグスキーの曲で、松達やすると曲の方が派手なイメージで、とても感動したけど、ムリルグスキーは絵だけのイメージで、オールドマンの人生をたどる意味でも曲をつけたと思う。

資料7 生徒Dの記述

生徒Cは、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら、「音楽のよさや美しさ」についてワークシートに記述することができています（資料6の赤下線部）。生徒Dの記述では、「音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えること」が不十分だと言えます（資料7）。

ウについての分析

「主体的・対話的で深い学び」の視点として、他者からの意見を色ペンで記入する（資料8、9の緑枠部分）ことにより、考え方や感じ方が広がったり深まったりした内容をワークシートに記述することができていました。また、グループ活動で深めた内容を発言することができていました。

曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景	それは音楽のどんなところから感じましたか(理由)	音楽を形づくっている要素
友との別れを悲しく感じる様子 大人びた気持ちがある	→低い音が使われていた →同じメロディーが繰り返される	→音色 →旋律
力強い感じ カリッぱりとした感じ 歯を振り出した感じ 歯の音がしている	→強弱 →強弱が激しい →重なる音、明るい音 →音、音が重なっている	→強弱 →強弱 →音色、リズム →速、強弱

資料8 生徒Eの記述

曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景	それは音楽のどんなところから感じましたか(理由)	音楽を形づくっている要素
朝の日光がでるような感じ 盛り上がる、迫力がある	力強い音と中、太った音から 強く響いていく	強弱 強弱
ゆたかに歩いている感じ 堂々としている感じ 老人にやさしく話している様子 最後の曲、何かを表現している 一歩も止まらずにいる	旋律の動きの幅が広い 1曲を通して強い曲だ やさしい音色が聞こえる のぼる音 一音一音響いている	旋律、速さ 強弱 音色 旋律、強弱 音色

資料9 生徒Fの記述

以上のことより、「曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景」と「それはどのようなところから感じたのか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」をワークシートに横並びに配置することにより、生徒が「思考の広がり・深まり」を意識することができたと思います。また、グループ活動において、他者との関わりを通して生徒の考え方や感じ方が広がったり深まったりすることができたと思います。

(6) 実態調査の結果を基にした手立ての有効性についての考察

検証授業の事前実態調査及び事後実態調査（令和元年9月実施）の結果（表2）を基に、手立ての有効性を分析しました。

表2 事前実態調査及び事後実態調査の結果 …事後のポイントが増加 …本文記載部分

質問	選択肢	割合	
		事前 n=36	事後=35
(1) 鑑賞の授業で感想を書くことは、好きですか。	1 好きだ	6%	17%
	2 どちらかといえば好きだ	17%	26%
	3 どちらかといえば好きではない	53%	37%
	4 好きではない	25%	20%
(2) 音楽の授業で音楽を鑑賞するとき、音色、リズム、速度、強弱、構成などの特徴を聴き取るようにしていますか。	1 そうしている	14%	37%
	2 どちらかといえばそうしている	53%	51%
	3 どちらかといえばそうしていない	28%	11%
	4 していない	6%	0%
(3) 音楽の授業で音楽を鑑賞するとき、その音楽のよさや美しさを感じ取るようにしていますか。	1 そうしている	14%	29%
	2 どちらかといえばそうしている	61%	57%
	3 どちらかといえばそうしていない	22%	9%
	4 していない	3%	8%
(4) 音楽の授業で音楽を鑑賞するとき、その音楽の作曲家や背景となる文化・歴史などについて考えるようにしていますか。	1 そうしている	6%	23%
	2 どちらかといえばそうしている	22%	34%
	3 どちらかといえばそうしていない	53%	31%
	4 していない	19%	11%
(5) 音楽の授業で音楽を鑑賞するとき、その音楽の特徴や感じ取ったことなどを言葉で表すことが好きですか。	1 好きだ	8%	23%
	2 どちらかといえば好きだ	19%	26%
	3 どちらかといえば好きではない	56%	43%
	4 好きではない	17%	9%
(6) 音楽の授業で学習する内容に興味をもって、積極的に鑑賞の活動に取り組んでいますか。	1 取り組んでいる	22%	37%
	2 どちらかといえば取り組んでいる	56%	57%
	3 どちらかといえば取り組んでいない	17%	3%
	4 取り組んでいない	6%	3%
(7) ふだんの生活の中で音楽を鑑賞するとき音楽の授業で学んだことが生きていますか。	1 そう思う	11%	23%
	2 どちらかといえばそう思う	44%	54%
	3 どちらかといえばそう思わない	33%	17%
	4 そう思わない	11%	6%
(8) 音楽の鑑賞の授業で、友だちと話し合う活動や共に学び合うことは必要だと思いますか。	1 必要だと思う	33%	71%
	2 どちらかといえば必要だと思う	61%	22%
	3 どちらかといえば必要だと思わない	3%	3%
	4 必要だと思わない	3%	3%

* 『平成25年度中学校学習指導要領実施状況調査 生徒質問紙調査（音楽）』（国立教育政策研究所）参考

「(2) 音楽の授業で音楽を鑑賞するとき、音色、リズム、速度、強弱、構成などの特徴を聴き取るようにしていますか（音楽を形づくっている要素に関する質問）」の問いに、肯定的に回答している（そうしている 37%、どちらかといえばそうしている 51%）生徒は 67% から 88% へ増加しています。ワークシートの工夫として、「曲を聴いて感じ取った曲想や、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情」と「それは音楽のどのようなところから感じたのか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」を横並びに配置し、ヒントプリントを使用することが有効に働いたと考えられます。

「(3) 音楽の授業で音楽を鑑賞するとき、その音楽のよさや美しさなどを感じ取るようにしていますか」という問いでも、事前調査では肯定的な回答が 75% に対し、事後調査では 86% に増加し、「音楽的な見方・考え方」を働かせることにより、肯定的な回答が向上したと考えられます。その結果「(6) 音楽の授業で学習する内容に興味をもって、積極的に鑑賞の活動に取り組んでいますか」の問いに、肯定的な回答として事前調査では 78% から事後調査 94% と大幅に増加しています。「(8) 音楽の鑑賞の授業で、友だちと話し合う活動や共に学び合うことは必要だと思いますか」という問いについては、肯定的な回答として事前調査も事後調査も 94% と同じであったものの、「必要だと思う」と回答した生徒が 33% から 71% と大幅に増加しています。

ワークシートの工夫として「曲を聴いて感じ取った曲想や、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情」と「それは音楽のどのようなところから感じたのか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」を横並びに配置することや、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成）をプリントに提示し（資料１）、ヒントプリント（資料２）を使用したことにより、手立てが有効に働いたと考えます。また、「感想を書く」ではなく、「この曲を知らない人に、この曲の特徴を紹介しよう（１時目）」、「この曲の紹介文を音楽と絵画との関わりを踏まえて書こう（２時目）」と具体的に示すこと（資料３）により、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせ、「思考の広がり・深まり」を少しずつではありますが、意識できるようになったと考えます。さらに、グループ活動での意見交換において、他者からの意見を色ペンで記入することにより、生徒の思考が広がったり、深まったりし、音楽のよさや美しさを見いだすことにつながったと考えます。

3 研究のまとめ

(1) 成果

- 中学校音楽科で育成を目指す資質・能力や「音楽的な見方・考え方」、「音楽のよさや美しさ」について整理することができました。また、音楽科における「主体的・対話的で深い学び」の視点についても考えを深めることができました。
- 鑑賞の授業において、「曲を聴いて感じ取った曲想や、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情」と「それは音楽のどのようなところから感じたのか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」をワークシートに横並びに配置させることにより、生徒が「思考の流れ・広がり・深まり」を意識することができるようになったと思います。また、このワークシートを活用して、他者からの意見を色ペンで記入させることにより、生徒の考え方や感じ方を広めたり深めたりすることができました。

(2) 課題

- ワークシートの工夫として「曲を聴いて感じ取った曲想や、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情」と「それは音楽のどのようなところから感じたのか（理由）」、「音楽を形づくっている要素」を横並びに配置し、生徒が知覚したことと感受したことを関連付けながら、「思考の流れ・広がり・深まり」を意識することができた手立てを取りましたが、生徒の「音楽を形づくっている要素」についての理解が不十分であったと考えます。教師側が、授業において重点的に取り扱う「音楽を形づくっている要素」を明確に位置付けることが重要であると考えます。
- ワークシートの中に、具体的な手立てを五つ取り入れました。生徒が音楽を鑑賞するときに「音楽のよさや美しさを見いだす」ための手立てとして、有効であったと考えます。しかし、より内容の充実を図るためにも、手立ての工夫について考えていく必要があると考えます。
- 今回の検証授業だけでなく、日々の授業において、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせる授業実践の継続的な取組が必要だと考えます。

4 引用文献・参考文献

《引用文献》

- | | | |
|---------------|---------|---|
| (1) (3) | 文部科学省 | 『中学校学習指導要領』 平成 29 年 3 月 p. 23, p. 99 |
| (2) (10) (11) | 中央教育審議会 | 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』
平成 28 年 12 月 p. 49, p. 47, p. 47 |

- (4) (5) (6) (7) (8) (9) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 音楽編』 平成 29 年 7 月
p. 10, p. 11, p. 11, p. 14, p. 58, p. 15
- (12) 初等中等教育局教育課程課教育課程企画室
「主体的・対話的で深い学びについて」『中等教育資料』
平成 29 年 5 月 p. 12

《参考文献》

- ・ 国立教育政策研究所 『平成 25 年度中学校学習指導要領実施状況調査 生徒質問紙調査（音楽）』
- ・ 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の
改善及び必要な方策等について（答申）』 平成 28 年 12 月
- ・ 文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成 29 年 3 月
- ・ 初等中等教育局教育課程課教育課程企画室
「主体的・対話的で深い学びについて」『中等教育資料』 平成 29 年 5 月
- ・ 文部科学省 『中学校学習指導要領解説音楽編』 平成 29 年 7 月
- ・ 副島 和久編著 『中学校新学習指導要領の展開音楽編』 平成 29 年 11 月
- ・ 副島 和久 「音楽科の特質に応じた言語活動とは」『ヴェン 音楽教育と「言葉」』
平成 31 年 1 月

中学校第3学年 音楽科学習指導案

1 題材名 他者と協働しながら、音楽のよさや美しさを味わおう

2 教材 組曲「展覧会の絵」 ムソルグスキー作曲 ラヴェル編曲

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、新学習指導要領〔第2学年及び第3学年〕の内容「B鑑賞」の「(1)ア(ア) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと」、「(1)イ(ア) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること」及び「(1)イ(イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりを理解すること」を受けて設定したものである。

教材曲の組曲「展覧会の絵」は、作曲家ムソルグスキーが、友人の画家・建築家ガルトマンの遺作展で見た絵画を音楽で表現したものである。この組曲は、絵画に対応する10曲の楽曲と絵から絵に移る作曲者の歩みや気分を表している「プロムナード」で構成されている。「プロムナード」とは、フランス語で「散歩」という意味であり、何度か形を変えて冒頭や曲間で演奏される。なお、ムソルグスキーはピアノ曲として作曲しているが、様々な楽器の音色や表現の多様さを感じ取り、音楽を深く鑑賞することができるように、ラヴェル編曲のオーケストラ版を用いることとする。また、曲の特徴や曲想等のバランスを考え、「プロムナード」「古城」「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」「キエフの大きな門」の4曲を教材として選択することにより、多様な音楽の鑑賞活動ができると考える。

本題材は、音楽を形づくっている要素に着目して、曲想と音楽の構造との関わりを感じ取って聴き、そのことによって理解したことや捉えた特徴などを根拠として曲や演奏に対する評価を考え、言葉で説明することにより、音楽のよさや美しさを味わうことができる。また、音楽と絵画との関わりについて考えを深めることで、より一層音楽のよさや美しさを味わうことができる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、鑑賞の授業において「魔王」「勸進帳」「フーガ短調」「春」「交響曲第5番」「ブルババ」など多様な音楽を鑑賞してきている。事前アンケートでは、「学校での鑑賞の授業は好きですか」の問いに48%の生徒が「好きだ」と回答している。また、「鑑賞の授業で音楽のよさや美しさを感じたことがありますか」の問いには68%の生徒が「感じたことがある」と回答している。しかし、「音楽の鑑賞の授業で感想を書くことは、好きですか」という問いには、「好きだ・どちらかといえば好きだ」と肯定的な回答した生徒は23%であった。逆に、77%の生徒が「好きではない・どちらかといえば好きではない」と回答しており、理由として「言葉で表現するのが難しいから」や「何を書けばいいかわからない」「感想を上手に表現できない」などが挙げられていた。また、「鑑賞の授業で、友だちと話し合う活動や共に学び合うことは必要だと思いますか」の問いには、94%の生徒が「必要だと思う・どちらかといえば必要だと思う」と答え、その理由として、「友だちの考えを聞いて、自分の考え方をもっと広げることができるから」「他の意見を取り入れることで見えてくるものがあるかもしれないから」などの肯定的な意見が多かった。

(3) 指導観

鑑賞領域の授業においては、生徒が音楽的な見方・考え方(＝音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付けること)を働かせて学習活動に取り組むことが大切であると考え。また、使用するワークシートを工夫することにより、授業改善ができると考える。

そこで指導に当たっては、知覚したことと感受したことを関連付けて捉えることができるようにするために、「曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景」「理由(根拠)」「音や音楽を形づくっている要素」を分かりやすく整理できるようなワークシートを準備する。そして、1時目においては、まず「古城」を

聴取し、知覚したことと感受したことを教師とのやりとりを通してクラス全体で考え、音楽の特徴についてまとめる。次に、「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」を聴取し、知覚・感受したことを個人で書き、その後グループ活動において、知覚・感受したことを広げ深めるようにする。2時目においては、1時目の学習経験を生かして、「キエフの大きな門」の音楽の特徴を捉え、グループ活動を通して、知覚・感受を広げ深めることとする。次に、この曲の基となった絵画との関わりについて考え、音楽と絵画との関わりについての自分なりの考えをもつことができるようにする。最後に、音楽と絵画との関わりについての考えを含めた紹介文を書くことで、本題材で学んだことを振り返ることができるようにしたい。

4 題材の目標

- 音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的・協働的に取り組む。
- 音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組む。
- 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解し、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
- 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて解釈したり価値を考えたりして、鑑賞する。

5 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度 [関]	鑑賞の能力 [鑑]
①音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解し、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
②音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	②音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて解釈したり価値を考えたりして、鑑賞している。

6 題材の指導計画と評価計画

時	◎ねらい ・学習活動	[評価規準] 【評価方法】
1	◎音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解し、根拠をもって批評するなどして、鑑賞する学習に主体的・協働的に取り組む。 ・「古城」「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」を鑑賞する。 ・個人で考えをまとめる。 ・グループで意見交流する。 ・全体で共有する。 ・紹介文を書く。	[関①] 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】 [鑑①] 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】
2	◎音楽と絵画との関連に関心を持ち、音楽の特徴を絵画と関連付けて解釈したり価値を考えたりしながら、主体的に鑑賞する。 ・「プロムナード」「キエフの大きな門」を鑑賞する。 ・個人で考えをまとめる。 ・グループで意見交換する。 ・全体で共有する。 ・紹介文を書く。	[関②] 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】 [鑑②] 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】

7 1時目の目標

音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解し、根拠をもって批評するなどして、鑑賞する学習に主体的・協働的に取り組む。

8 1時目の展開（1／2）

	学習活動	教師の指導・支援	評価【方法】
導入	1 「プロムナード」を聴く。 2 本時のめあてと授業の流れをつかむ。	・作曲された経緯について説明し、組曲「展覧会の絵」について興味をもつことができるようにする。	
	めあて 「曲の特徴をとらえて、紹介文を書こう」		
展開	3 「古城」を聴き、「曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景」「理由」「音楽を形づくっている要素」との関わりを理解する。また、「曲の特徴について」考える。	・「曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景」「それはどんなところから感じたのか（理由）」「音楽を形づくっている要素」について、生徒と一緒にまとめる。 ・記述が進んでいない場合は、ヒントプリントを配る。	
	4 「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」を聴き、個人でワークシートに「曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景」「理由」「音楽を形づくっている要素」を書く。		
	5 「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」を聴いて、知覚・感受したことについて、グループで意見交換し、自分の気付かなかったことを、ワークシートに書き加える。	・知覚・感受したことをグループで意見交換させ、個人で気付かなかったことに気付けるように支援を行う。 （ワークシートに色ペンで書かせる） ・クラス全体で共有する。	【関①】 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】
	6 「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」についての紹介文をワークシートに書く。	・グループや学級で意見交換したことを基に、記入するよう指示をする。 ・知覚・感受した事柄を根拠にして、紹介文を書くように指示する。	【鑑①】 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】
終末	7 絵画と音楽との関わりについて考える。	・聴いた2曲の「曲名」を知らせ、「絵画」を見せることで、絵画と音楽との関わりについて、生徒が考えることができるようにする。	
	8 次時の予告をする。	・次回「キエフの大きな門」を聴くことを伝え、曲と絵画との関わりについて、学習することを伝える。	

9 1時目の評価規準と判定基準

題材の評価規準	判断するポイントと指導の手立て	評価の方法
音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	おおむね満足できる状況（B） 以下の2点をどちらも達成できている場合は、おおむね満足できる状況（B）と判断する。 ・音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりについてワークシートに記述している。 ・曲の特徴について、自ら発言をしたり、他者の発言を聞き、それに対して反応をしたりしている。 十分満足できる状況（A） 以下の2点をどちらも達成できている場合は、十分満足できる状況（A）と判断する。 ・音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりについてワークシートに2つ以上記述している。 ・曲の特徴について、自分が感じ取ったことや考えたことを他者に伝えようと発言したり、他者の発言を集中して聞き、それを基に自分との共通点や相違点を述べたりして、話し合いの学習を深めようとしている。 指導の手立て（C） ・ポイントを分かりやすく説明し、記述できるように支援する。 ・話し合い活動に参加できるように支援し、発言を促す。	[関①] 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】
音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解し、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって鑑賞している。	おおむね満足できる状況（B） ・紹介文の中で、曲の特徴について触れて記述している。 十分満足できる状況（A） ・紹介文の中で、曲の特徴について、根拠を明確にして記述している。 指導の手立て（C） ・ポイントを分かりやすく説明し、記述できるように支援する。 ・曲の特徴について問い、聞き取りを通して、支援を行う。	[鑑①] 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】

10 2時目の目標

音楽と絵画との関連に関心を持ち、音楽の特徴を絵画と関連付けて解釈したり価値を考えたりしながら、主体的に鑑賞する。

11 2時目の展開（2／2）

	学習活動	教師の指導・支援	評価【方法】
導入	1 前時の振り返りをする。	・ 前回のワークシートから「卵の殻をつけたひななどのバレエ」の紹介文を紹介する。	
	2 異なる「プロムナード」を鑑賞し、前時の学習を振り返る。	・ 同じ「プロムナード」でも、「音楽を形づくっている要素」（音色・旋律（調）・速度）が違っていると曲の特徴が変わることを理解させる。	
	3 本時のめあてを確認する。	・ 「キエフの大きな門」の基となった絵画についてイメージさせ、音楽と絵画との関連について興味をもたせる。	
	めあて 「音楽と絵画との関わりについて考え、曲を味わおう」		
展開	4 「キエフの大きな門」を聴き、ワークシートに「曲を聴いて感じたことや心に浮かんだ情景」「理由」「音楽を形づくっている要素」を書く。	・ 記述が進まない生徒については、前時に配付したヒントプリントを参考にするように助言し、支援する。	
	5 グループで友だちの考えを共有し、知覚・感受したことを広げる。	・ グループ活動が停滞しているところには声掛けを行い、支援する。 ・ 友だちの意見の中から、自分が納得いく内容を、色ペンでワークシートに記入させる。 ・ 意見をクラス全体で共有させる。	【関②】 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】
	6 再度、曲を聴く。	・ ワークシートの1に記入したことを、実際に音で確認するよう指示する。	
	7 この曲と絵画との関わりについて、個人で考える。その後、グループで意見を交わし、自分の考えを広げる。	・ 「キエフの大きな門」の絵画を提示する。 ・ この曲は「絵のイメージ」と合っているか、また合っていないかを考えさせ、グループで論じさせる。 ・ グループ活動が停滞しているところには声掛けを行い、支援する。	
	8 再度、曲を聴く。	・ グループで話し合った内容を、実際の音で確認するよう指示する。	
	9 この曲の紹介文を書く。	・ この曲と絵画との関わりを踏まえながら、紹介文を書くよう指示する。	【鑑②】 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】
終末	10 今回の学習で学んだことを振り返る。	・ この組曲の他の曲や絵画を紹介しながら、学習を振り返るよう指示する。	

12 本時の評価規準と判定基準

題材の評価規準	判断するポイントと指導の手立て	評価の方法
音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	おおむね満足できる状況（Ｂ） 以下の２点をどちらも達成できている場合は、おおむね満足できる状況（Ｂ）と判断する。 ・ワークシートの「絵のイメージ」と合っているかどうかの問いに答えている。 ・絵画と音楽との関わりについて、自ら発言をしたり、他者の発言を聞き、それに対して反応をしたりしている。 十分満足できる状況（Ａ） 以下の２点をどちらも達成できている場合は、十分満足できる状況（Ａ）と判断する。 ・「絵のイメージ」と合っているかどうかについての理由を書いている。 ・絵画と音楽との関わりについて、自分が感じ取ったことや考えたことを他者に伝えようと発言したり、他者の発言を集中して聞き、それを基に自分との共通点や相違点を述べたりして、話し合いの学習を深めようとしている。 指導の手立て（Ｃ） ・ポイントを分かりやすく説明し、記述できるように支援する。 ・話し合い活動に参加できるように支援し、発言を促す。	[関②] 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】
音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりして、鑑賞している。	おおむね満足できる状況（Ｂ） ・紹介文の中で、曲と絵画との関わりに触れて記述している。 十分満足できる状況（Ａ） ・紹介文の中で、曲と絵画との関わりについて、根拠を明確にして記述している。 指導の手立て（Ｃ） ・ポイントを分かりやすく説明し、記述できるように支援する。 ・曲と絵画のイメージとの関わりについて問い、聞き取りを通して、支援を行う。	[鑑②] 【ワークシートの記述、発言の内容、観察】

組曲「展覧会の絵」 ワークシート①

3年 組 () 号 氏名 ()

☆ 学習の見通し ☆

1 時間目	めあて 「 曲の特徴をとらえて、紹介文を書こう 」
	① 2 曲を鑑賞する。
	② 1 曲目 「曲の特徴」について、みんなで考える。
	③ 2 曲目 個人で考える。 → グループで考えを広める。 → 紹介文を書こう。

1. この曲を聴いて、下の表を書こう。

【音楽を形づくっている要素】

音色 リズム 速度 旋律 テクスチャ

強弱 形式 構成 など

曲を聴いて感じたことや 心に浮かんだ情景	それは音楽のどのようなところから 感じたのか（理由）	音楽を形づくっている要素

2. この曲を知らない人に、この曲の特徴を紹介しよう！

（条件） 上の1で書いた3つのことを入れながら書こう。

この曲は、

ぜひ、聴いてみてください。

組曲「展覧会の絵」 ワークシート②

3年 組 () 号 氏名 ()

☆ 学習の見通し ☆

2 時間目	めあて 「 音楽と絵画との関わりについて考え、曲を味わおう 」 ① 2 種類の「プロムナード」を鑑賞する。 ② 「キエフの大きな門」を鑑賞する。 ③ 曲と絵画との関わりについて考える。 → 紹介文を書く。
-------	---

1. 「キエフの大きな門」を聴いて、
下の表を書こう。

【音楽を形づくっている要素】
音色 リズム 速度 旋律 テクスチャ
強弱 形式 構成 など

曲を聴いて感じたことや 心に浮かんだ情景	それは音楽のどのようなところから 感じたのか（理由）	音楽を形づくっている要素

2. この曲は、「絵のイメージ」と合っていると思いますか？ ア～ウから選ぼう。

- ア. 合っている
- イ. 合っていない
- ウ. どちらともいえない

なぜ、そのように思うのか、理由をメモしましょう。

3. この曲の紹介文を「音楽と絵画との関わり」を踏まえて書こう。
（上の1や2で書いたことを含めながら書きましょう）

この曲は、